

大会後も継続する国際交流へ

東京2020大会を契機に、 各区で市民と世界との「協働」を

ついに来年に迫る、東京オリンピック・パラリンピック競技大会。世界の注目が日本に集まり、多くの国の人々が東京に集まるこの期間は、市民が各国の文化に触れ、国際交流を行う絶好の機会です。一方、東京23区全てが競技開催地とはならず、大会を機に国際交流の機会を得られる市民は限られます。また大会時には、一部の国が自国の文化のPRや国際交流を促進する事業を行ったり、施設を設けたりしますが、いずれも一過性のものであり、交流施設などは大会後に撤去されます。

そこで、東京青年会議所は2019年、世界各国と協働して、それぞれの国の文化のPR、そして市民との交流を行い、各国との関係構築を試みます。その取り組みの一つが、各国大使館等の協力で実施された4月例会「万国フェス2019」です。「万国フェス2019」で築かれた関係を活かし、東京2020大会開催中に、各国や地域団体、市民とともに東京青年会議所が23区全域で国際交流を行う拠点を協働して作り、その交流やこれに基づく人的関係を大会後にも継続することを目標としています。



2019年4月28日、駒沢オリンピック公園中央広場にて、東京都、世田谷区、目黒区、(公財)目黒区国際交流協会、(公財)世田谷区スポーツ振興財団後援のもと、東京青年会議所4月例会「万国フェス2019」を開催しました。天候にも恵まれ、約8000名もの方にお越しいただき、大盛況にて終了しました。



参加・協力国一覧

アフガニスタン、北マケドニア、スイス、スリランカ、セルビア、中国、ドイツ、トーゴ、ニカラグア、日本、ネパール、パキスタン、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベナン、ポーランド、ハンガリー、マダガスカル、マラウイ、南アフリカ、モーリタニア、モルディブ、モルドバ、モロッコ、リトアニア
(五十音順、一部略称)



「まさにダイバーシティそのもの」 東京都知事 小池百合子氏からの激励

東 京都知事小池百合子氏にお越しいただき、東京の目指すべき姿「3つのシティ」についてのお話を賜りました。「万国フェス2019」は、3つのシティの一つである「ダイバーシティ」そのものだと評価いただきました。さらに「塩澤理事長をはじめとする青年会議所メンバーは、海外の方々を気持ちよく仲間として受け入れられるよう努力している」と続けられ、本例会及

び日々の活動に対して友好的な言葉をいただくことができました。

その後、東京青年会議所第70代理事長塩澤正徳君の謝辞では、「私たちには、誰もがいきいきと過ごせる社会をつくるという使命がある。そのためにも東京2020大会に向けてもっと国際交流を経験してもらいたい」と本例会に対する思いが語られました。

各国大使館との協働による 世界を身近に感じるプログラム

万 国フェス2019」では、スポーツ大会、各国の料理が楽しめる飲食ブース、世界の音楽とダンスに触れられるステージ、各国大使館協力による体験・ワークショップブースなど、子どもから大人まで世界を身近に感じられるプログラムが多数催されました。

「万国こどもスポーツ大会」では参加者

から好評を博すとともに、「他国と協働して作り上げる」という運営側の貴重な経験にも繋がりました。

各国大使館からも、本イベントの集客力、盛況ぶりに「非常に満足」との声をいただいております。今後も東京青年会議所を介した国際交流の場を設けることに積極的な姿勢を示してくださいました。



東京2020大会後も 継続する国際関係の構築を

準 備、企画、運営に携わった東京青年会議所メンバーや、参加した市民が、国際交流の機会を経験することで、外国や外国人と交流する心的障壁を取り除くことが目的の一つでもあった本例会。この国際交流の拠点提供を受けた各国の人々に、東京や日本に対する親和的な感情を持っていただけたことは、2020年以後も交流継続していくための重要な布石となることでしょう。

東京青年会議所は2020年、都内23区で23の国と「東京JC ナショナルハウス」を地域団体、各国、東京青年会議所の3者で作る計画を立てています。今回の「万国フェス2019」によって各国大使館との関係構築が進み、さらに東京都の後押しを得られたといえます。今後も私たちが先導を切り、民間外交を推進していきましょう。

社団法人東京青年会議所 4月例会

